

2006年3月（第76回）景気定点観測アンケート いざなぎ景気越えを約9割が予測

経 済同友会は3月22日、2006年3月期の景気定点観測アンケート調査結果を発表した（回答数250名）。

今回の調査では、景気の現状について「拡大」または「緩やかに拡大」と回答した会員が96%と、前回12月調査時の93%から増加。今後の見通しについても拡大が続くという見方が94%に達した。雇用については

「不足」とする回答が30%となり、景気回復の中で人材を確保する難しさを感じさせる結果となった。また、今回のアンケートではトピックスとして「2006年度の景気見通しについて」、「証券市場の課題について」の2項目についても調査を行った。2006年度の景気見通しについては、企業収益と個人消費が牽引するという見方が目立った。

景気の現状について

Q 現在のわが国の景気動向をどのように判断されますか。

	全 体					(社)経済 同友会	各地代表 幹事
	2005/3	2005/6	2005/9	2005/12	2006/3		
拡大している	0.4	0.8	0.4	6.4	18.8	21.0	12.5
緩やかに拡大している	21.3	45.7	85.1	86.4	77.2	75.8	81.3
横ばい状態が続いている	68.1	51.2	13.4	6.4	3.6	3.2	4.7
緩やかに後退している	10.3	2.3	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0
後退している	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	1.6

景気の現状については、「拡大」（『拡大している』＋『緩やかに拡大している』）（93%→96%）が前回調査より増加する一方、「横ばい」（6%→4%）が減少、「後退」（『後退している』＋『緩やかに後退している』）の回答はなかった。

2006年度前半（06年4月～9月）の 景気見通しについて

Q 2006年度前半（06年4月～9月）の景気についてどのようにお考えですか。

	全 体				(社)経済 同友会	各地代表 幹事
	現状判断※	05/9月時※	05/12月時※	今後の見通し		
拡大する	18.8	2.6	6.0	16.0	17.7	10.9
緩やかに拡大する	77.2	84.6	82.3	77.6	77.4	78.1
横ばい状態が続く	3.6	12.0	10.8	5.6	3.8	10.9
緩やかに後退する	0.0	0.0	0.8	0.8	1.1	0.0
後退する	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0

※注）今回調査の景気判断の数値です。

※注）05/9月時の回答は05年10月～06年3月、
05/12月時の回答は06年1月～6月についての見通しです。

今後の見通しについても、現状判断に比べ若干減少するものの、拡大が続くという見方が多く、「拡大」（『拡大する』＋『緩やかに拡大する』）が94%、「横ばい」が6%、「後退」（『後退する』＋『緩やかに後退する』）はごくわずか。

トピックス—— 2006年度の景気見通しについて

Q 2006年11月以降も景気動向指数が50%を超えると、いざなぎ景気（57カ月）を抜くことにはなりますが、その可能性はどの程度あるとお考えですか。

回答数：250名

ほぼ確実である	17.6%
可能性はかなり高い	69.2%
可能性はあるがかなり低い	12.0%
可能性はほとんどない	1.2%

「可能性はかなり高い」が69%で最多。「ほぼ確実である」の回答（18%）が続ぎ、あわせて9割近くが可能性が高いと見ている。

Q いざなぎ景気超えを左右する要因に関し、プラス（サポート）要因、マイナス（リスク）要因として特に重要とお考えになるものを、それぞれひとつずつお選びください。

回答数（プラス要因）：224名 回答数（マイナス要因）：221名

項目	プラス要因	マイナス要因
企業収益	45.1%	0.9%
設備投資	11.2%	0.5%
個人消費	27.2%	4.1%
輸出動向	5.4%	3.6%
資産価格（株式・不動産）	2.7%	3.2%
米国経済	3.6%	33.5%
中国経済	2.7%	6.3%
原油価格	0.0%	30.3%
為替レート	0.4%	5.9%
金利動向	0.0%	10.4%
その他	1.8%	1.4%

プラス（サポート）要因では、「企業収益」（45%）が最多で、「個人消費」（27%）がこれに続く。マイナス（リスク）要因では、「米国経済」（34%）が最多で、「原油価格」（30%）がこれに続く。